



# 地域医療連携室

地域医療連携室 看護師長 和地 いつみ

地域医療連携室では、当院の地域医療支援病院・急性期病院という役割の中で「地域と病院」・「患者さんと地域の暮らし」・「院内の多職種」など様々な場面での「連携」を図ることを主な仕事としています。これらの役割を担うために、スタッフ15名（室長、副室長、事務職6名、MSW4名、看護師3名）で構成されています。

「**地域と病院の連携**」では、主に事務職が中心となり、地域の医療機関からの紹介予約受付や、治療後には医療の継続の目的での報告書を紹介元に送付するなどの業務を行っています。また、近隣の医師会とも連携を図り、地域の方々や院外の医療者向けに講演会などの企画・運営もしています。

「**患者さんと地域の暮らしの連携**」では、MSW・退院支援看護師を中心に、「患者さん」から「地域で暮らす人々」という視点で治療後の患者さんが安心して療養できる環境を選択することができるよう支援しています。療養上の心配事や不安なこと、希望などを患者さん・ご家族と一緒に考えながら、入院中の場合はそれぞれの退院に向けた解決へのお手伝いを行い、外来通院中の場合は医療・介護の体制の調整をしています。

「**院内の多職種との連携**」では、上記のような様々な連携に必要な院内の多職種との情報共有や、支援にあたってのゴールの共有、役割分担、その進行状況の確認などを行っています。院内の多職種がそれぞれの専門性を生かして、一つの目標に向かって助け合いながら実践していくことをモットーとしています。

## 『地域医療連携室での看護師の役割』

看護師は師長・主任・スタッフの3名で構成されており、師長は主に入院や転院の受け入れに関する業務・調整を行っています。受け入れに当たっては、予定入院・緊急入院ともに、院内全体の空床状況を見ながらその患者さんにとって最適なベッドを提供することができるよう調整しています。また、急性期病院として救急車の受け入れも年間約4,700件と増加傾向であります。救急外来からの入院決定や病棟にご案内するまでの時間短縮を目標に看護師の視点で医師と連携し、診療科・重症度の見極めにも協力することができるよう心がけています。

主任・スタッフ看護師は2名体制で、主に退院や転院に関する相談・調整を行っています。

病気や治療に伴い、生活状況が変化したり、身体機能が低下したりすることがあります。そのようなとき、自宅でどのようにしたら暮らせるか、また患者さん・ご家族がどこでどのような療養生活を送りたいかなどを聞きながら、よりよい生活場所の検討や決定ができるよう支援することを目標としています。

